



社日地区のイチオシ！

安来とともに発展した神社 ～安来神社の変遷と文化～



▲境内の大イチョウ。1度は資金調達のため伐採されかけましたが、有志の尽力で、今も堂々とした姿を残しています。

◀安来神社。昭和4（1929）年に行った大規模な改修にあわせて現在の名前となりました。

安来市では、安来港の発展とともに、豊かな文化が多数生み出されてきました。安来神社とそれに関連する文化もその一つです。

安来神社の始まりは江戸時代。港に関わる商売で豊かになった住民たちが「自分たちのまちの中心に自分たちの神社をつくりたい」と国主に願い、許可を得て元禄12（1699）年に祇園神社（後に八雲神社、安来神社に改称）ができました。5代松江藩主が信仰したこと、歌舞伎上演の華々しさから、歴史が浅い寺社とは思えないほどの信仰を集めました。

「安来芝居」と呼ばれたこの歌舞伎は、祇園祭の日に子どもたちが6台の山車の上で上演。「安来神社夏季例祭奉納屋臺絵巻」には言い表せないほど賑わう様子が描かれています。この芸能は、明治初期に政府から華美なことをやめ節約するようにという通達が出されるまで行われていました。

活気にあふれた安来神社の現在について、神社の責任役員である根来茂樹さんは「先人たちが継承してきた、ヤッホー・神輿巡行をはじめとした歴史や文化を少しでも後世に残し、つながりの場、憩いの場としての役割を取り戻していけたらと思います。例えば、自分たちが子どもの頃は、秋になると多くの人が銀杏を拾っていました。ぜひ皆さんも、安来神社でお参りついでに拾っていただく」と話しました。

編集後記

安来市の人口と世帯数 R5.11.30現在

人口合計／ 35,887人
(男:17,291人 女:18,596人)
世帯数／14,265世帯

▼アルテピアで開催された「eスポーツ運動会」取材した時のこと。体験コーナーで孫との対戦を楽しむ男性や、トーナメント大会に出場する子連れの女性を見かけ、老若男女を問わない競技であることを実感しました。切川バイパスが開通した時にeスポーツカフェなどがあると賑わうかもしれませんね（け）

▼前に1度「モルック」をしたときに、自分たちの得点を調整しつつ、相手側を有利な状態にしないよう、チーム全体でのコミュニケーションが大切なスポーツだと感じました。多文化共生イベントでも、皆さん最初はぎこちなかったのが、だんだん自然体で会話をしている、交流を楽しんでいる様子が素敵でした（岩）



●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等については、地域振興課（☎ 23-3067）までご連絡ください。